

どうなる敦賀のこれからの医療と介護

平成29年9月放送

川上 究

近年、医療介護制度がいろいろ変化しているのですが、皆さんはどのように感じておられますか？来年にはいろいろな改定も控えており、「どのような医療介護になっていくのか」が心配です。

まず敦賀の医療と介護をとりまく現状がどうなっているか考えてみましょう。

第一に働いて税金を納めてくれる若年層が減少し、高齢者が増加する傾向があります。このことは財政の問題だけに留まらず医療・介護職に就く人も減少する、少なくとも増加しない事を意味します。診療所に若い医師がおらず訪問診療や往診をしている医師が高齢になり、訪問診療・往診ができなくなっていく事も心配です。

第二に敦賀市は福井県の他地域に比べ核家族が進んでいます。このことは家族間の介護協力が得にくくなる事につながります。同じ敦賀市にいても住居が分かれる事は、コンパクトな街ではなくなります。

コンパクトな街は高齢者や、認知症の方が自ら車を運転できなくなったりした時に、自立して生活を営む上で、とても重要な街の在り方になります。今の敦賀には、高齢者が楽に歩いて日常生活に必要な者を得られる商店がありません。自ら車が運転できなければ生活ができない状態になっています。「配達してもらえば」との考えもあるのですが、家の外に出て多くの人と交流することが「アンチエイジング 認知症の予防の為に！」とても重要なのです。

コンパクトでない今の街の状態では、自家用車に変わる移動手段を、早く整えることがとても重要な事だと思



いませんか？

第三に敦賀市は運動習慣のない方が多いのではないのでしょうか？少しの距離でも自家用車を使う習慣？をもっている方が多いようですが・・・。

足腰が弱いということは、寝たきり、認知症への道といわれています。

第四に高齢化と共に、デイサービスなどの介護サービスを使う方が多くなり、地域ではごく元気な高齢者がポツンと取り残されている現状があります。町内会などの地域共同体の助け合い力が落ちてきているのではという実感があります。

以上、いくつかの敦賀の状況を眺めてきましたが、あまり将来に希望の持てる話ではありませんでした。即ち医療・介護も将来安心できる状態ではないということです。

現在、国は医療・介護にかかる費用を何とか抑えつつ、適切な医療介護を提供できないかと政策展開をしています。即ちそれは地域医療構想、包括ケアシステムと名付けられているものです。簡単に言えばそれは、費用のかかる病院への入院を出来るだけ少なくして（あるいは入院期間を短くして）軽症の方は自宅などで療養をしてもらおうという構想です。医師をはじめとして殆どの医療・介護職が在宅医療に関わることになっています。果たしてこの敦賀において、このような事がうまく機能できるかどうか。敦賀の現状を考えると不安ですが医療・介護職だけでは難しいので市民の皆さんのご協力をお願いします。とにかくみなさん、何歳になっても遅いということはありません。何かに頼るのをやめ足腰を鍛え、食事にも気を使い、健康で自立した生活が続くようにがんばりましょう！